

平成 30 年度 長崎市自然環境調査報告書：水生生物

長崎市自然環境調査委員 深川 元太郎

《平成 30 年 2 月～平成 30 年 12 月》

昨年度の報告書になかった平成 30 年 2 月、3 月分も今回掲載しています。今年度は、昆虫類の田中委員と共同で、伊王島の昆虫類・海岸動物類のファウナ調査を主に実施しています。そのため、伊王島での調査回数が多くなっています。伊王島の報告は、別途取りまとめて、報告書として長崎市へ提出することになっています。

○伊王島(伊王島・沖ノ島)：2 月 2、3、11 日

2 月は、2～3 日に打上貝と昆虫類、11 日に昆虫類の調査を実施しました。2～3 日は、171 種、11 日は 42 種を確認する事ができました。1 月 27 日の調査を含め、これまでの調査で計 227 種、そのうち伊王島初記録が 136 種となっています。これは、伊王島の調査がこれまでほとんど行われてこなかったことに起因するものです。

○伊王島(伊王島・沖ノ島)：3 月 10、17 日

10 日は、海岸動物類、打上貝類とビーティング法による昆虫類調査を実施しました。17 日は、ビーティング法による昆虫類調査が中心です。確認種は、10 日が 176 種、17 日が 60 種でした。打上貝類は、現地の砂を持ち帰り、室内でソーティングを行い、出来るだけ微小な種を把握するように努めています。昆虫類は、2 月に比べると活動する種が散見できるようになっていますが、まだ越冬状態の種が少ない状況です。



○伊王島(伊王島・沖ノ島)：4月1、22日

1日は、海岸動物類、打上貝類等調査とビーティング法による昆虫類調査を実施しました。22日は、ビーティング法による昆虫類調査を中心に行っています。確認種は、1日が138種、22日が156種でした。海岸動物類は、小島海水浴場と西ノ浜で実施しましたが、前者では砂を別の場所から搬入していると考えられ、古い死殻を対象外としています。後者は、ウミニナ、カニモリガイ、ムシロガイ、カヤノミカニモリなど RL(レッドリスト)等が確認され、外海に面した本島の中で内湾的な環境が維持されている場所と考えられます。

昆虫類は、1日では成虫越冬の種が若干活動を開始している程度でしたが、22日ではナガサキアゲハやアオスジアゲハなどの成虫も確認され、多くの種が活発に活動を開始していました。



西ノ浜



カヤノミカニモリ



ムシロガイ



シマベッコウバイ



ウミニナ



コセアカアメンボ

○伊王島(伊王島・沖ノ島)：5月4、27日

打上貝と陸生昆虫類の調査を実施しました。4日は190種、27日は154種を確認しました。打上貝では、トウガタガイ、サワラビ、イワカワトクサ、ダイミョウガイなど比較的少ない種も確認されました。淡水エビでは、小島海水浴場奥の水路でトゲナシヌマエビとヒラテテナガエビの2種を確認することができます。また、トンボ類では今回初めてオオシオカラトンボを確認できました。伊王島は、淡水域が非常に限定的であるため、淡水性種をあまり望めないようです。陸生昆虫類では、ネムノキのスウィーピングで、ネムチビトビカスミカメとネムノキナガタマムシといった、ネムノキ類に依存する種の生息を確認できています。

○長浦町 手崎川上流部：5月5日

タモ網による水生動物類の調査を実施しました。主な確認種は、オジロサナエ幼虫、ムカシトンボ幼虫、タニガワミズギワカメムシ、ツヤヒラタガムシ、ナガレカタビロアメンボ、ミゾツヤドロムシ、アカモンミゾドロムシなどです。また、川岸のエゴノキには、エゴツルクビオトシブミが作った多くのゆりかご、「揺籃」(ようらん)を確認できました。

○5月のその他の調査：5月20日

野母崎樺島町と神浦川汽水域で湿地性や汽水性の昆虫類の調査を行っています。現在、ゴミムシ類の専門家による同定が進行中です。この結果は後日、学会等で報告する予定です。



伊王島小島海水浴場奥



伊王島水路



ミカドアゲハ



伊王島海浜部



ゴマフニナ



サトウヒメハナノミ



オオヒョウタンギマワリ



ラミーカミギリ



サワラビ(左)



手崎川上流



エゴツルクビオトシブミ



タニガワミズギワカメムシ

○蚊焼町岳路：6月3日

岳路を流下する小河川下流部一帯にある放棄水田の調査を実施しました。この場所は、主にハンゲショウやヨシが生育しており、ヨシ原に依存する昆虫類の把握も念頭に実施しました。小河川ではトゲナシヌマエビ、ヒラテテナガエビが多く生息しています。放棄水田では、私有地であるため、立ち入っての調査は控え、歩道からの把握であったため、ヨシに依存する昆虫類を確認する事ができませんでした。ハラビロトンボなど一部湿地性の種を確認できたのみです。今後更なる調査を実施していきたいと思います。

○伊王島：6月3、17日

伊王島の灯台付近及び沖ノ島の遠見岳を中心とした昆虫類の調査を実施しました。灯台付近で 98 種、遠見岳付近で 65 種を確認しています。

○平間町 八郎川下流：6月24日

目合いが異なる2種のタモ網を用いて調査を実施しました。本調査で、サカマキガイ、色ゴイ、モツゴ、オイカワ、ヒメダカ、クサガメ(飼育逸出個体?)など、国内外の外来種と考えられる個体や品種改良などが確認されました。一方、コフキヒメイトトンボといった長崎市レッドリスト絶滅危惧ⅠA類も確認されています。周辺が住宅・市街地であるためか、生態的な攪乱が進んでいる状況のようです。



蚊焼町岳路



ヒラテテナガエビ(岳路)



ハラビロトンボ(岳路)



八郎川下流



ミナミテナガエビ(八郎川)



モツゴ(八郎川)



コフキヒメイトトンボ(八郎川)



ヒメダカ(八郎川)



マダラミズカメムシ(長翅型)(八郎川)

○伊王島：7月1日

灯台付近、唐船岳、沖ノ島南部の3ヵ所でビーティング法と目視による昆虫類の調査を実施しました。陸生の昆虫類を中心に144種を確認できています。ヤブニッケイの黒穂病菌瘻（きんえい）に生息するカクチビキカワムシが本菌瘻の中から確認されました。冬季に本種を確認していましたが、今回本島での発生場所が確認されたことになります。

○伊王島：7月8日

沖ノ島南部の海岸で打上貝および干潮時の岩礁帯での目視調査を実施しました。打上貝を中心に117種を確認しています。岩礁に付着するものとして、イワフジツボ、マツバガイ、ケガキ、ムラサキインコ、カメノテなどが主なものです。岩礁の間隙にある転石下では、イソカニダマシ、シロアオリ、クマノコガイ、イシダタミ、ムラサキクルマナマコなどが主に確認されました。これらは、長崎市の東シナ海側では普通に産する種です。

○伊王島：7月21日

唐船岳南部で灯火採集を実施しました。主な確認種は、キンモンエグリバ、トビイロスズメ、シモフリスズメなどの蛾類、ヒメツチカメムシ、クロホシカメムシなどの半翅類、ヨツモンコミズギワゴミムシ、アオドウガネなどの甲虫類で、低地でよく確認される種で構成されていました。周辺に止水環境がないにも係らず、水生昆虫のコマツモムシが飛来したことから、ごく小規模な止水環境が存在するようです。また、道路を横切ったタヌキを目撃できています。



伊王島唐船岳南部



ベッコウハゴロモ



ウラギンシジミ



アオダイショウ



ホシベニカミギリ



灯火採集



トビイロスズメ



カブトムシ、コクワガタほか



コハンミョウ

○伊王島：8月11日

唐船岳南部で灯火採集を実施しました。主な確認種は、ヤスマツチビナガカメムシが多数飛来し、ムナビロアトボシアオゴミムシ、アオドウガネ、ヤマトアオドウガネ、サビキコリ、キイロスズメなどです。アオドウガネは多数飛来しましたが、近縁種のヤマトアオドウガネは1個体のみで、前種に比べ少なくなっているようで、本種を市内で確認できたことは有意義であったと思われます。

○伊王島：8月14日

遠見岳南西部の海岸で打上貝および干潮時の潮溜まりでのタモ調査および唐船岳南部での陸上昆虫類を対象としたビーティング法を実施しました。確認種は、海産貝類41種(打上貝含む)、エビ・カニ類15種、昆虫類83種、棘皮類3種、魚類6種など計149種でした。



伊王島唐船岳南部



ツノトンボ



ヤマトアオドウガネ



遠見岳南西部海岸



クモハゼ



オハグログギ

○伊王島：9月16日

沖ノ島の遠見岳一帯および伊王島唐船岳南部一帯の昆虫類の調査を実施しました。バッタ類、カメムシ類、甲虫類を中心に112種を確認できました。

○無人島調査 松島：9月22日

渡島して午前中の約1時間、潮間帯に生息する種を中心に調査を実施しました。潮間帯上部は、アラレタマキビ、コビトウラウズ、中下部はケガキ、ムラサキインコ、クロフジツボが多く、外海に面する側ではこれにオハグログギが加わります。潮溜まりでは、イボイワオウギガニ、イソガニ、イソスジエビ、カエルウオ、イソギンポ科(未同定)、ギンユゴイの幼

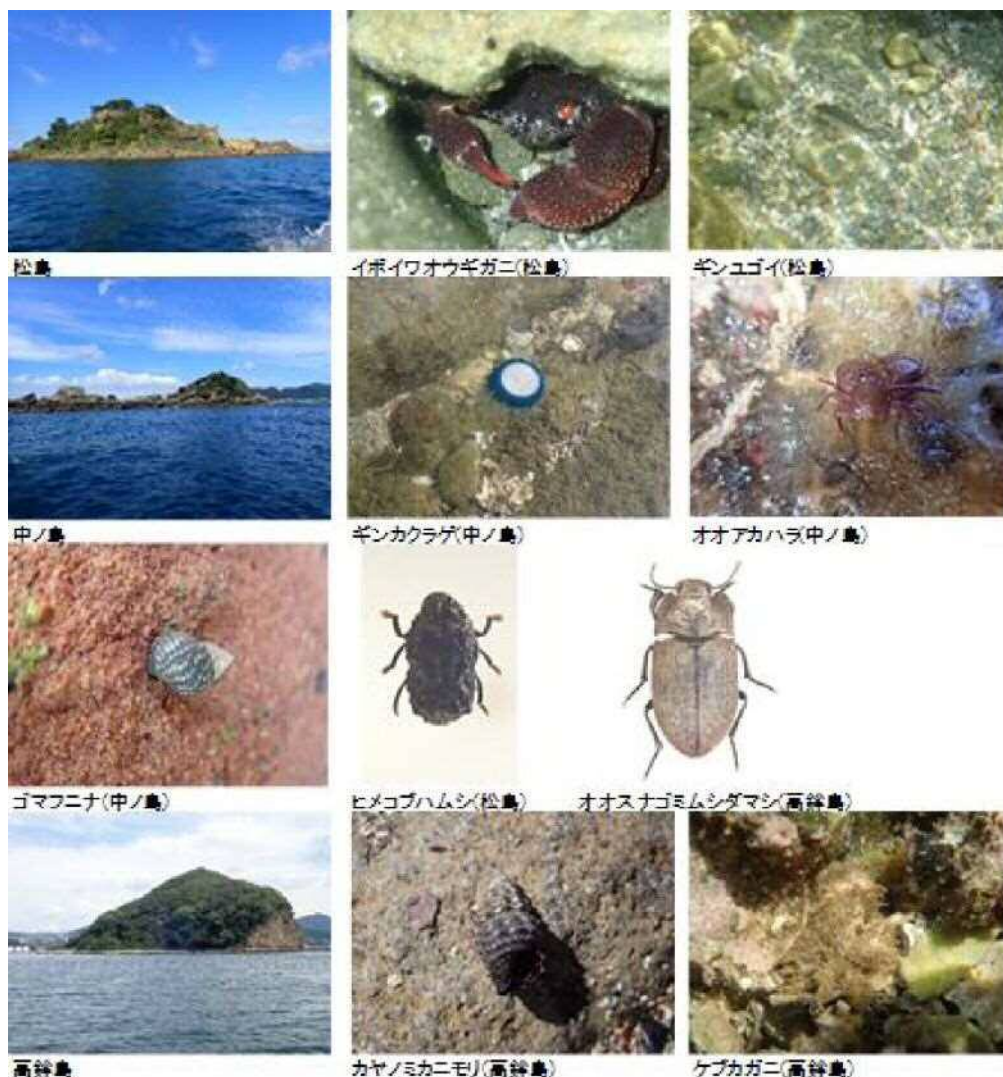
魚などが確認されました。

○無人島調査 中ノ島：9月22日

午前中の約2時間弱、潮間帯に生息する種を中心に調査を実施しました。潮間帯で見られる種の多くは、松島と同様でしたが、外海側で見られることが多いオハグログキを確認できませんでした。一方で内湾性のヤッコカンザシゴカイが少数ですが確認できています。

○無人島調査 高鉾島：9月22日

午後から調査を実施しました。本島には砂礫浜海岸があり、そこに打ち上げられた貝類の調査、岩礁部の調査が中心です。岩礁部では前2島と同様の種が確認できましたが、内湾性の種が占める割合が多くなっている印象があります。打上貝では、長崎市 RDL の絶滅種であるハイガイの古い死殻が複数確認され、過去には本島周辺に生息していたものと思われます。また、外来種のみドリイガイ、ムラサキイガイを今回も確認しています。



○伊王島：10月7日

沖ノ島の南側海岸付近および伊王島西ノ浜の海岸動物・打上貝の調査を実施しました。確認種は、貝類 99 種、節足動物類 25 種、棘皮動物類 7 種、魚類 8 種、その他 6 種の計 145 種でした。調査地は、前者で岩礁・転石部であったため、基質に付着・匍匐するもの、石の下に隠れているもの、潮溜まりに生息するものが主なものです。後者は、砂地であり、砂地に潜行して生息する種が中心となっています。RL 等に掲載されているものは、カヤノミカニモリ、カニモリガイ、ムシロガイ、イセシラガイ、ダイミョウガイ、クチバガイの 6 種の貝類でした。中でもイセシラガイは、殻の表面に被膜がある新鮮な死殻が西ノ浜で確認され、本場所一帯に少数ながら現在も生息しているものと思われます。本種は、全国的に減少しており、県内においても新鮮な死殻が見つかる場所は局所的となっています。西ノ浜は狭い砂浜で、沖ノ島と伊王島の運河の中に位置するため、この浜に潮下帯の砂底部を加えてもあまり広いとはいえません。



沖ノ島南部海岸



フトビシヤコ



ヒメベンケイガニ



オトメガサ



西ノ浜



イセシラガイ

○伊王島：11月23日

伊王島小島海水浴場および沖ノ島漁港の 2 ヶ所において、打上貝、海浜性昆虫の調査を実施しました。確認種は、貝類 74 種、昆虫以外の節足動物 15 種、昆虫類 8 種、その他 4 種の計 101 種でした。打上貝は、前者では伊王島以外から砂を搬入し、覆砂を行っているため、自然分布のものか判断が難しいものが多い状況です。沖ノ島漁港にある砂浜では、食後に遺棄したものと思われる、やや深場に生息する貝類が散在していました。地元漁業者が伊王島周辺で捕獲したものを廃棄したものと思われますが明確ではありません。RL 等掲載種は、カニモリガイ、ハボウキガイ、フジナミなど貝類が確認されました。フジナミは、殻皮をまとった新鮮な死殻で、昨年、脇岬で確認した新鮮な死殻に続き、2 例目です。長崎半島一帯の砂浜には、現在でも本種が生息している環境が残っているものと思われます。海浜性昆虫類の

調査は、小島海水浴場のみで実施しました。今年度初めに実施した際に確認したものがほとんどでしたが、オオスナゴミムシダマシを初確認することができました。



○西出津町：12月2日

平成28年2月に実施した同地点で、打上貝類と海浜性昆虫類の調査を実施しました。確認種は、打上貝類118種(前回112種)、昆虫類8種(前回2種)の計135種(前回118種)で、本地点では174種確認された事になります。打上貝の種組成は前回とほぼ同様で、砂地よりも岩礁域を好むものが多い状況でした。この点から潮下帯の多くは、岩礁域で、その間隙に砂地が存在すると推察されます。海浜性昆虫類は、前回再発見されたハマベオオヒメサビキコリを確認できましたが、今年度の台風の影響のためか、発見場所であるハマゴウ群落が波浪等の影響で荒れた状態となっており、確認数が9個体と少ない状況でした。今後注視していく必要があるものの、人為的な影響もあまりない場所であるため、徐々に回復するものと思われる。なお、打上貝の中にシマメノウフネガイ(外来種)が1個体ですが確認され、角力灘側一帯にも広がっているようです。



○三重田町：1月6日(平成31年)

榎山川と杉谷川の合流点付近でタモ網を用いて調査を実施しました。確認種は、魚類がカワムツなど3種、エビ・カニ類がヒラテテナガエビなど8種、淡水性貝類が3種、その他がミズカマキリやコガタノゲンゴロウなど102種の計116種でした。河口部左岸側に広がる転石海岸では打上貝が29種確認されましたが、転石であるため小型の貝類を中心に把握が困難な状況でした。RL等掲載種では、オナガサナエ、ゲンジボタル、タカハヤなど9種を確認できました。また、外来種は、今後検討が必要な種も含め5種です。



三重田町 榎山川



ミズカマキリ



コガタノゲンゴロウ



ゲンジボタル幼虫



ナガサキシキニナ



タカハヤ